

「大谷石 未来へ」と題する5回にわたる連続講座が、栃木県立博物館で開催されました

NPO法人大谷石研究会 佐藤光弘
(栃木県立博物館)

「大谷石 未来へ」の発行を記念して、5回にわたる連続講座が、5月13日(土)から9月24日(日)にかけて、栃木県立博物館の会主催により開催されました。まず初日、NPO法人大谷石研究会の塩田潔前理事長が、「大谷石 未来へ」大谷石の持つ限りなく「潜在力」という演題で講演、大谷石建築の魅力について力強く語られました。



大谷石の魅力について力強く語る前塩田理事長



た渡邊哲夫さんのお話がありました。大谷石をただ単に有益な石としてだけでなく、人々を育み優しく包み込む「最良の土」としてもとらえていきたいというお話があり、とても心が温かくなりました。最後には、同研究会の佐藤公紀理事長が「フランク・ロイド・ライトの痕跡を探して」という演題で講演、ライト氏の功績と完成間近の「旧大谷公会堂」について分かりやすく丁寧な説明をいただきました。

大谷石未来へ連続講座 会場/栃木県立博物館

| 会期 | 講師 | 内容 |
|------------|--|---|
| 1回 5/13(土) | 大谷石研究会前理事長 塩田 潔 | 「大谷石未来へ-大谷石の持つ限りなく潜在力-」 |
| 2回 6/4(日) | 栃木県立博物館名誉学芸員 柏村祐司 大谷石研究会理事 高橋啓子 | 「大谷石の民俗学」 「栃木県の凝灰岩」 |
| 3回 7/8(土) | 足利大学名誉教授 和田昇三 宇都宮まづくり推進機構 武井貴志 小山工業高等専門学校建築学科助教 小林基澄 | 「大谷石の遺構と文化財」 「まちなかの大谷石文化を育む」 「集落調査そしてみてきたものは」 |
| 4回 8/26(土) | 宇都宮市文化財調査員 池田貞夫 | 「石蔵に見る徳次郎石文化と大谷石文化」 |
| 5回 9/24(日) | 石工 渡邊哲男 大谷石研究会理事長 佐藤公紀 | 「石工育成の展望」 「F・L・ライトの痕跡を探して」 |

逆面地区集落調査報告

NPO法人大谷石研究会 理事 小林 基澄
(小山工業高等専門学校建築学科 助教)

令和5年10月21日に、晴天の中、大谷石研究会メンバーと高専、宇都宮大学の学生ら総勢26名と共に、宇都宮市逆面地区の大谷石建物の実測やヒヤリング等による実地調査を行いました。

逆面地区は栃木県宇都宮市の中心市街地から北方に位置している、丘陵地内の谷津にある農村集落で、古くから「七弁天八廟所の地」とも言われるなど、昔話や祭り行事が多い歴史の深い場所でもあります。地区内には大谷石の建物が密集しており、神社の参道や井戸、山付近の土留めなど多様な石造建造物がみられ、さらには付近では採石が行われておりそれらを加工する石工がいたともされています。



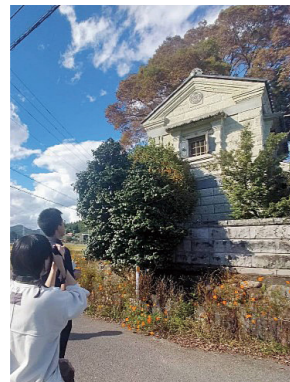
神社参道の石製の狛犬、灯籠



天保11年に造られたとされ、修理しながら使われている石蔵



通りから石蔵を調査する様子



積石蔵の妻面の装飾を撮影中

大谷石建物を対象に、建物の実測、写真による記録、及び所有者へのヒヤリングを行いました。これらを統合することで、大谷石建物と町並みの特徴を明らかにすることを目的としています。

逆面地区は城跡や神社のある山林をバックに敷地が連続しています。通りから見えるもの他にも、敷地奥に行む蔵や、間口が広く農作業などに半外部的な使い方をされる納屋などの大谷石建物を多数発見できました。また建物の他にも、石製の小さな祠や、地区内の白山神社には石でできた狛犬、鳥居、灯籠といった多様な大谷石の使われ方を見つけたことができています。

物がやはり多いものの、地区内にはそれよりも古い大正、明治期に建てられた薄い石を板蔵に留めた張石造の蔵や、なかには天保11年に建てられたといわれる非常に歴史のある石蔵も現存しています。そして、それぞれに時代ごとに異なる石の構法や開口部の装飾や建物の意匠も確認できました。このように逆面地区では時代や用途によってもさまざまな石の使われ方がされていることが分かり、これらがこの地区の歴史や山林の地形とともに、奥深い景観を生み出していると考えられます。

栃木県宇都宮市を中心とした大谷石の建物と町並みに関する調査研究は、2012年から継続的に行われており、今年で11年目となります。今回も地域の住民の皆様のご協力のもと、多くの調査メンバーで隔々まで調査を実施し、無事終えることができました。これまでの調査と合わせて、大谷石の石造文化の解明にまた歩近づいたことでしょうか。

会員通信

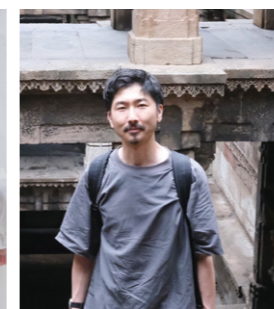
石工の継承を目指して

NPO法人大谷石研究会 会員 富田有一
(前田建設工業株式会社)

入会して早2年、その間にアトリ工設計事務所からゼネコンの設計部に職を移し、今年8月には男女の双子が生まれ、公私共に充実した生活を送っています。その一方で、建築を志す人間として大谷石の建築物をつくりたいという入会当時の気持ちが変わらず、講演会や集落調査に参加する中で大谷石の特徴を学んでいます。特に9月24日に開催された大谷石研究会連続講座にて石工の渡邊哲夫氏の「石工の展望」、佐藤公紀理事長の「フランク・ロイド・ライトの痕跡探して」の拝聴は、入会当初の気持ちを具体的な活動にするためのきっかけとなりました。



8月に生まれた双子



インドのステップウェルにて

た。渡邊氏が旧帝国ホテルの移築工事に携わられた際の現場でのお話と実際に使用された施工図を見た時には興奮して思わず、弟子入りの申し入れをいたしました。生まれ育った愛知県にある旧帝国ホテルをきっかけとして大谷石に関心を持つようになったこともあり、渡邊氏から石工の技術を学び、後世に伝えていくことを私のライフワークにできないかと考えはじめています。



渡邊氏の彫刻



旧帝国ホテル



調査後の集合写真

写真集「大谷石 未来へ」
NPO法人 大谷石研究会
2,500円(税込) 113頁

販売書店
【東京都】 丸善丸の内本店
日本建築学会 建築書店
南洋堂書店
【栃木県】 落合書店(宝木店・イトーヨーカドー店・トナリエ店・東武店) うさぎや(作新学院前店・宇都宮駅東口店・宇都宮テクノ店) 東築瀬店・戸祭店・矢板店・自治医大店・栃木城内店・益子店) ビッグワン(若草本店・400号西那須野店・黒磯店) 森百貨店 栃木県立博物館

大谷石 東西南北

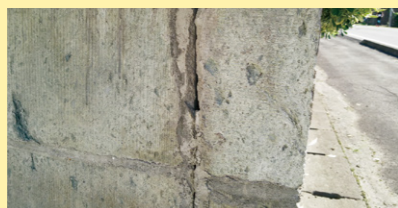
北の“弟”は「やすらぎの青」

NPO法人 大谷石研究会 広報担当 平沼 隆志

秋田県北部の北秋田市で見つけた塀の石は、青とも緑とも見える色合いが印象的。「やすらぎの青」とも評される。大谷石と同類の緑色凝灰岩「十和田石」だ。大谷石の様な“味噌”は見当たらない。



浴場の床に使うと、滑らず実用的な上、見栄えがする。同県大館市の一部の山からだけ採石されている。採石会社(中野産業株式会社)のホームページによると、採石は1973(昭和48)年から。大谷石の歳の離れた弟ともいえよう。インターネットで「なんも大学 十和田石」を検索すると、採石現場の探訪記が出てくる。



中野産業(株) HP



なんも大学HP